

地域の声に寄り添い、
奈良の魅力を高めるまちづくり

塚本まさる

Tukamoto Masaru
奈良市議会議員

議会活動報告



近鉄大和西大寺駅周辺のまちづく

近鉄大和西大寺駅周辺のまちづくり 南北を連携、連動した取り組み強く要望

奈良市議会の塚本勝(所属党派)自民党奈良市議会(結の会)は、令和4年度の市議会活動の中で、近鉄大和西大寺駅周辺や鴻ノ池運動公園の整備とまちづくり、消防行政の諸課題などについて質問しました。消防行政では、災害時に活躍するドローンを活用するよう求めました。このほか世界遺産25周年や、大阪・関西万博に向けた観光戦略について質問し、「コロナ後の観光力向上を求めました。令和4年度の市議会活動を奈良市民の皆様にご報告いたします。

令和4年度の市議会活動報告 消防力や観光力など向上訴え

駅の北口には、今年3月末にバスロータリーの整備が完了しました。II写真。今後、市有地を活用した産官学の連携拠点づくりに取り組んでいくための調査費やプログラム費が新年度予算に盛り込まれました。

私は「民間企業や研究機関、行政が一体となって奈良市の市街地としてさらなる魅力作りを」と求めました。仲川元庸市長は「市内大学との連携や、産官学の交流を通じて、若者がそのまま奈良市内へ就職してくれるような、そんな取り組みの場になるよう努めていきたい」と答弁しました。

また区画整理事業がほぼ完了することになる南口には今後、奈良商工会議所が移転される計画になっており、私は北口の産官学連携拠点と計画している市有地との連携、連動を提案しました。

消防団へのドローン導入実現 市消防団情報収集部隊の運用開始

奈良市は災害時にドローンを活用した支援活動に関する協定を民間ドローン業者と締結しています。また消防局では、大型ドローンを保有しているほか、国のモデル事業としてドローンを活用した情報収集部隊の設置が進められており、消防団員の操縦士の育成も行っていく方針です。私はこれら消

防団操縦士の具体的な育成方法について議会でも質問に立ちました。また消防団へドローンの早期配備を求めました。

市は「住宅密集地でドローンを操縦するには10時間以上の飛行経験が必要と、航空法で定められており、消防団の操縦士には十分な飛行経験をつけていただ



く必要がある。計画的に操縦士の育成を行いたい」と答弁しました。

また私は求めた消防団へのドローンの早期配備については「市内で発生した災害のうち、消防団員の目視による災害状況確認が困難と判断される現場でドローンを飛行させ、状況把握を早期に行えるよう、運用する計画を進めている」と答えました。

これらを受けて奈良市消防団は新年度の4月1日から、ドローンを使って上空からの災害情報を収集し、消防と連携して災害の早期収束を目指す「奈良市消防団情報収集部隊」II写真IIの運用を開始しました。消防団のドローン導入は県内初です。春日原生林など確認が困難な立ち木火災や、広範囲におよぶ雑草火災のほか、河川氾濫の被害状況確認などの上空調査を想定しています。

このほか私は消防力の強化や消防職員、消防団員の積極的な確保について求め、仲川元庸市長は消防力をフル活用し、新たな消防力の増強につながる施策を展開したいと話しました。

【主な役職】

- ・奈良市消防団都跡分団団長
- ・奈良商工会議所青年部OB朋友会役員
- ・奈良納税協会貯蓄組合連合会常任理事

- ・奈良飲食店組合役員
- ・平城宮跡保存会監事
- ・奈良県防衛協会常任理事

- ・奈良経済産業協会経和会会員
- ・おん祭り大名行列保存会会員
- ・日本バーテンダー協会奈良支部会員

